



# 受託研究報告書

ハーツリッチ株式会社 御中

光触媒による新型コロナウイルスに対する不活化効果の評価



2021 年 5 月 10 日

公立大学法人

奈良県立医科大学医学部

微生物感染症学講座



この度、御社との受託研究における標記の件につきまして、ご報告申し上げます。

## 記

### 1. 研究目的

光触媒が持つ抗菌・抗ウイルス効果によって、新型コロナウイルスの不活化効果があるかを明らかにすること。

### 2. 試験品

銅イオン光触媒加工したガラス板 (50 mm x 50 mm)

### 3. 試験ウイルス：新型コロナウイルス (SARS-CoV-2; 2019-nCoV JPN/TY/WK-521 株)

新型コロナウイルスを VeroE6 細胞に感染させ、細胞変性効果が確認されたものを回収し、-80℃のフリーザーに凍結保存した。凍結融解を 2 回繰り返したものを遠心分離し、上清を限外濾過膜で濃縮・精製した。これを試験ウイルス液とし、試験まで-80℃ のフリーザーに凍結保存した。

### 4. 試験内容

- 試験は JIS R 1706 (可視光応答型光触媒の抗ウイルス性試験方法) に準じて実施した。
- 試験品に新型コロナウイルスを接種し、表 1 の作用時間にて静置した。
- 光照射条件は、白色蛍光灯にて可視光照射 (1000 lux) とした。
- 作用時間後、PBS 液によってウイルスを回収した。
- 回収液を用いて Vero E6 細胞に感染させ、ウイルス感染価をプラーク法にて測定した。

表 1. 試験品に対する作用時間

試験品*	光照射条件#	作用時間	
		0 時間	1 時間
光触媒未加工ガラス板	1000 lux	○	○
光触媒加工ガラス板	1000 lux		○

\*：試験品は、試験直前まで殺菌灯に 24 時間照射してから使用した。

#：1000 lux は、UV カットフィルター N169 (380nm 以下の波長をカット) を使用した。

○：測定 3 ポイント x 実施 2 回

不活化効果は以下のように算出した。

$$\begin{aligned}\text{不活化効果 (Mv)} &= \log(\text{Ct}/\text{C}_0) - \log(\text{Nt}/\text{N}_0) \\ &= \log\text{Ct}/\text{Nt}\end{aligned}$$

Ct: コントロール 0 mW/cm<sup>2</sup> t 時間後の感染価

C<sub>0</sub>: コントロール 0 時間後の感染価

Nt: 試験品 0.25 mW/cm<sup>2</sup> t 時間後の感染価

N<sub>0</sub>: 試験品 0 時間後の感染価

減少率は対数減少値より次の通り算出した。

$$\text{減少率} = (1 - 1/10^{\text{対数減少値}}) \times 100\%$$

なお全試験は、本学内のバイオセーフティレベル 3 (BSL3)の実験施設において、適切な病原体封じ込め措置のもとに行なった。

## 5. 結果

結果を表 2～3 と図 1 に示した。

光触媒加工ガラス板に  $5.30 \times 10^5$  PFU/sample のウイルスを接触させると、1 時間で検出限界の  $<2.50 \times 10^2$  PFU/ sample (減少率>99.995%) へと感染価が減少した。

表 2. ウイルス感染価の推移

	0 時間	1 時間
光触媒未加工ガラス板	5.30E+05	5.00E+05
光触媒加工ガラス板	5.30E+05	<2.50E+01

検出限界値：<2.50E+01 PFU/sample

表 3. ウイルスの不活化効果と減少率

	0 時間	1 時間
不活化効果 (Mv)	-	4.30
減少率 (%)	-	>99.995%

減少率(%)は小数点第 4 位以下切り捨て

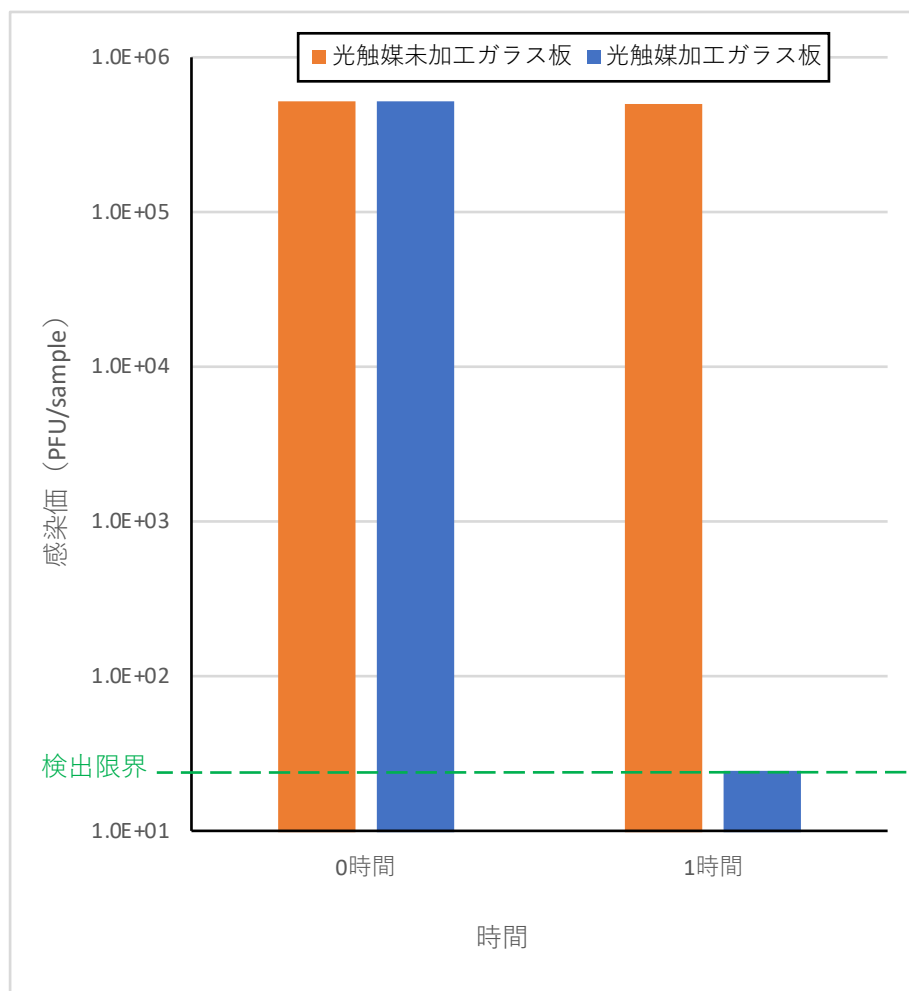


図 1. ウイルス感染価の推移

## 6. まとめ

本試験で使用した銅イオン光触媒加工ガラス板は、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）に接触させることにより不活化することが判明した。本試験品を使用することにより、物質の表面についた新型コロナウイルスによる接触感染防止に有効である可能性が考えられた。なお、空間に浮遊するウイルスへの効果、人体への影響については検証を行っていない。

本試験結果は本報告書の通りであることを証明いたします。

公立大学法人  
奈良県立医科大学医学部  
微生物感染症学講座

